

タイピックだより

11月号

2017.10.20 発行

Vol.59



十一月になると、冬支度をする人も多いのではないのでしょうか。現代では、寒くなれば、すぐに暖房やこたつを出して使っています。江戸時代には、こたつを設置する日は旧暦十月の亥の日「こたつ開き」の日と決まっていたのだそうです。

この日は、月日を十で表す旧暦では、十月である亥の月の亥の日となり、亥(猪)が重なることから「玄猪(げんちよ)」と呼ばれていました。多産である猪にあやかっ、子孫繁栄を願い「亥の子餅(いのこもち)」を食べて祝ったそうです。亥の子餅は、新米にその年に収穫された穀類などを粉にしたものを混ぜて餅にし、イノシシの子供の

うり坊に見立てて作るお餅です。秋に収穫された新穀で作ることで、収穫に感謝し作物を見守っていた神様が山へ帰っていくのを見送る行事でもあったそうです。現代でも「亥の子祝い」として西日本を中心に祝われています。亥は陰陽五行説では水に当たり火に強いので、この日にこたつを出すと火事にならないといわれ、こたつ開きの日となったそうです。季節感を大事にしていた江戸っ子達は、どれほど寒くても、この日までは、我慢していたといえます。

二〇一七年の亥猪の日は十一月八日になるそうです。私たちも昔を倣い、感謝の気持ちで心を満たしたいものです。そして、熱いお茶で亥の子餅を食べれば寒さも和らぐかも知れませんね。



こどもプログラミング教室始めています

10月開講

タイピック 10月開講 コどもプログラミング教室

なぜ今、プログラミングなのか？

2020年以降、小学校でもプログラミング教育が必修化、現在の中学3年生が大学受験をする時から日本の大学入試制度(センター試験)が、これまでの暗記重視型から論理的思考力を重視した試験に大きく変わります。プログラミング学習は、これからの時代必要とされる能力を養えることに最適だと考えられ注目度が高まっています

入試でも役立つ
論理的思考力を今から育成!



10月より、「こどもプログラミング教室」を始めています。文部科学省は、2020年にプログラミング教育必修化を盛り込んだ学習指導要領改定案を発表しました。

プログラミング学習は、楽しみながら論理的思考力を養うことができるため、これからの時代必要とされる能力を鍛えることに最適です。まずは、見学、無料体験に是非、お越し下さい。

＜場所＞
株式会社タイピック 1F 教室
＜受講日程＞

- 第1・第3土曜クラス
 - 第2・第4土曜クラス
- 各 90 分

- ＜受講時間＞
- 10:30~12:10
 - 13:00~14:40
 - 15:00~16:40

対象年齢
園児・小学生



お子様ひとりにつき1台のパソコンを準備していますので、実際にパソコンを操作していただき、パソコンの基本的な操作も覚えながら、楽しくプログラミングを体験していただける体験会です。

まずは電話でご予約をお願いします

0120-733-554

タイピック株式会社タイピック 益田市常盤町7番3号

必要とされる人へ、必要とされる会社へ

Typic 株式会社 タイピック



〒698-0023 島根県益田市常盤町7番3号
Tel. (0856) 23-2800 代 Fax. (0856) 22-5592 番
<http://www.typic.jp>

社長の つぶやき



今年六月下旬に伊勢神宮を参拝し、奈良・京都を回る旅行に参加する機会があった。この時に奈良で昼食の後、土産物を見ていたら写経用紙が置かれていた。

数年前に山口県立萩美術館で写経用紙を購入し、十数枚書いたが頓挫したことがある。今回、写経用紙を見た時に「よし、この写経用紙を買って十月からの倫理法人会が主催する百日実践トライアルにチャレンジしよう」と決め百枚を購入した。

十月になり出張などで書けない日もあるので「百日で百枚書き写す」ことに決め書き写しを始めたが、書いているうちに、般若心経の文字も読めず意味も知らずに書き写しても心理的成長がないと思うようになり、意味を調べようとインターネットを開いてみた。

インターネットでまず目に留まったのは、「写経から得られる功德とは『善行を積んだ結果得られる果報』であり、最初からご利益を授かる目的で行うものではありません。般若心経の功德は私利私欲を

捨て、ひたすら、写経に没頭するという心構えで取り組んだ結果、初めて得られるものです。そこで得られた功德からは、人智では計り知れない恩恵を享受することができまます。」とあり、更に「一説には、三千三百二十八枚以上書き上げるところまで到達すると、どんな難関でも突破できる力が備わるともいわれています。続けた先には、きつとよい未来が訪れるでしょう」と書いてあった。

これを読んで、インターネットで意味を調べるより、本を買って読んでみようかと写経を終えて本屋に向かった。本屋に入る時はいつも「良い本に巡りあえますように」と祈って入るようになっているが、今回も祈りながら入り般若心経に関する本を探した。店内を回ったが見つからず、諦めるしかないかと思いつつながら本棚を見たら『心がすつきりかるくなる般若心経』があり、即、読み始めたのである。

この本に般若心経全文にひらがなが振られているページがあり、これを一読したが神道の私にはすらすらと読めないのである。写経する前に全文を読んでから書き写しを行うことに決めた。

私は、現在『安岡正篤 一日一言』(致知出版発行)を三年間(千九十五

枚)ハガキに書き写して、知人に送ることにして今日まで千九枚書き続けているし、致知出版社からメールで送られてくる一日一言を一昨年正月からノートに書き写している。そして多くの本を読み、倫理法人会で学んでいるが、最近、自分の考え方が変わったように思えるようになった。

どのように変わったか一言では言えないが、物事を前向きに考え実行できるようになったような気がしている。更に倫理で学び致知で実践する『喜働哲学経営』を続け成徳達材を為してゆきたい。



わが社の ほっとニュース



ビジネスパソコン科の生徒さん簿記試験に向けて頑張っています！

弊社の玄関を入っていただくと、左側がゆっくりやさしいパソコン教室。右側が職業訓練の教室となっております。

七月に始まりました「ビジネスパソコン科」に入校された生徒さん。ワード・エクセル、日商簿記三級、ビジネスマナーなど多くの資格取得を目指して、毎日元気に勉強に励んでいます。今は、十一月十九日にある日商簿記試験に向けて、毎日、奮闘しています。生徒の皆さんが全員合格できるように、スタッフも全力でサポートをしています。



誕生日の決意

〇A事業部

寺戸 雄次



27歳を迎えるにあたり、月日が経つのは早いなと感じております。もう若いといわれる歳ではなくなりましたので、日々の健康管理に気を付けていきたいと思っております。

段々と寒くなってきました、毛布から出たくない時期がやってきました。毎朝が自分自身との戦いだと思っております。自分自身の目標として、目が覚めたら最初に冷たい水で顔を洗うようにしています。これは最近始めたことなのですが、今まで朝は自分に対して甘かったところがあるので、一日

印刷事業部

三浦 裕子



数日前からしみじみ感じていることがあります。一つは、満五十歳を迎えることです。十年前に四十歳になった時と同じく数字の十の位が一つ増えるという大事件、そしてもう一つは、身体の疲れ度(その日の疲れが次の日に持ち越す)が年々加速しているような気がするのです。気のせいではないうつ病です。しみじみ実感している今日この頃です。

今年の夏に高校時代の同窓会がありました。何十年か振りの再会でしたので、みんな当時のあの頃にタイムスリップしたかのようで、キャーキャー

の始まりとして、継続して行っていきたいと思っております。

また、日々仕事を行う中で勉強の日ですが、自分が知らないことを知る機会があるというのは、今後にプラスになるので日々悩みながらも覚えていければと思います。そして、関わってくださる方々へ、少しずつ恩返しをしていければと思います。



フーワード、自身の体力を忘れ大はしやぎで、おしゃべりの方も止まることなく、次回の開催を約束し、楽しいひと時を過ごすことができました。

私自身、今のところますます健康で楽しく過ごしてこれていることに感謝です。様々な人からの温かい支えがあるからこそであり、ありがたうございます。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

この節目となる歳だからこそ、健康の有り難さを痛感しつつ、これからもマイペースで愉快に過ごしていけたらと思っています。

印刷事業部

岡崎 幸枝



暑い夏が終り、もう秋になっていきます。直ぐに冬、春と季節がめぐってきます。なんと早いことでしょうか。八月末、会社の研修旅行で東北震災地を訪れましたが、昨日の事のように思えます。

震災地は復興も進んではいるものの、まだまだ先になる事が予想されます。現地に行くことテレビ等で見聞きするのでは大違いです。悲惨さのスケールが違うとも言います。どうか、想像以上で目頭が熱くなります。そんな中でも地元の方々は多大の苦難や悲し

萩教室

後藤 清子



昨年、42歳の誕生日の決意は、自分の身体のメンテナンスのために少しでも運動をする事でした。ばっちり継続できていると発表したいのですが、何かと理由を付けさぼることの方が多い一年でした。

そんな意志の弱い私ですが、最近自分に合った継続方法を見つけたことができました。「スバリ」朝活」です。

一日を振り返って自分の自由に使える時間はいつかと考えると、パソコン教室に到着後、始業開始までの時間でした。日によって取れる時間はまちま

みを持たれつつも、未来に向かって頑張っておられます。国や人、その他たくさんの方々の支えが必要だと思えました。旅さめやらぬ今、誕生日を迎え考えさせられる事、その中で自分がどういう生き方をするのかが大事だと思えます。考える力、行動する力、生きぬく力、生活する上でも必要ですが、仕事に対しても同じ事が言えます。人生そのものが変わると思っています。



ちですが、完全にフリーな時間です。そこで登場するのが、生徒さんから頂いて教室に置いてある「青竹踏み」です。始めた当初はバランスを取るのも難しく、痛くてすべぎアップしていましたが、最近は足の裏がじんわりと温まってくるまで続くようになりました。身体も気持ちもすっきりし、万全の態勢で生徒さんをお迎えできるので正に一石二鳥です。

朝活に「青竹踏み」おススメですよ。



写すという行為

パソコン教室カメラ講座担当

田中 頼昭

三月十一日

午後何時ごろだったかパソコン教室の私に妻から電話がかかってきた。勤務中に妻から電話があるのはよほどのことである。「とにかくテレビ見て」と。むろん勤務中にテレビを見ようにも見ることは出来ないが、大変な事態が展開しているのだとは切羽詰まった声の状態で察しがついた。三月十一日東日本大震災の日である。

あれからもう六年が経つ。非常事態を知らせた妻も逝って五年。世の中も人生の重大事も瞬く間もなく過ぎ去って、何もなかったかのような日常の繰り返しが今はある。しかしそれは時間の経過だけであって、甚大な災禍は復興への道遠く、人々が受けた心の傷は癒しようがない。その東北をこの夏社員旅行として視察することになった。みちのくは芭蕉、藤原氏等々歴史文化遺産の豊かなところではないか訪れたいと願っていたところでもある。



レンズを向ける是非

しかし自分の動機は別なところにあった。震災の跡地に立って、平常な気持ちでレンズを向けられるだろうかという疑問、いわばうしろめたさである。昨今、道を行く通りすがりの人を写すという行為でさえはばかられる状況にあって、うちひしがれている(である)人々、瓦礫の残る町の風景に平気でカメラのシャッターを切れるのか、写真を撮るといふ行為が許されるのか。遠く離れた島根の片隅では、報道されるマスコミの情報からただ想像する以外になかった。

声なき慟哭

震災以来心の底に沈む澁みの中で、どんなにもがいても取れない重さで迫ってくる出来事がある。それは、大川小学校児童の被災である。何が起こったのか、だれがどのように行動をとったのか、本当に子どもたちを救えなかったのか。



案じたとおり、小学校跡地に到着した最初十分ぐらいは茫然と立ち尽くすだけであった。建物が涙でかすみ、声のない嗚咽が胸から突き上げて止まらない。我々だけでなく他の人々も似たような状況であった。思っ。しばりくへ後巡したが、迷いを振り切ってシャッターを押した。

次に女川町を訪れると、目に見える形で復興が進んでいた。駅の建物を中心として商店街が新設され、住宅が数十メートル上の高台に移転しつつあった。しかしこの町も復興が進みつつあるといえ人の心の傷が癒えることではないという。つい最近のNHK番組で、当時小学生で被災した女子高校生が、両親が亡くなった状況を悲しみにゆえに聞く気になれず、最近やっと近所の人に聞いてみる状況になったということが報道された。むろんその番組も涙なしで見られなかったことは言うまでもない。

最後は南三陸町である。テレビで繰り返し見た防災センターの建物は十メートル以上の防災用土手に囲まれ、最後に生き残ったわずかの人が必死にすぎたアンテナも地面と同じくらいの高さになっていた。過酷な災害の場を安穩に見下ろしている自分は、まるで重い罪を背負わされているかのようであった。

悲しみを越えて

その三陸町で案内をして頂いた藤鉄工所の社長佐藤氏に「被災地の写真を撮るのにためらいを感じている」と伝えたところ「全く問題ありません」との返事を頂いた。実際、町のさんさん商店街の写真店では店の方が被災の様子を詳細かに、迫力ある写真に仕上げで展示され、今では立派な震災記念館としての役割を果たしている。

自分は何を迷っていたのか。自分勝



手な見せかけの安直な人情論に振り回されていたのではないかと。被災された方たちは堂々と生きておられ悲しみ苦しみを背負いつつ、それを微塵も感じさせない意思の力で乗り越えようとしておられる。実際、いわき、石巻、女川、三陸町と、会った人々からは生き抜くパワーを頂いた。また幾多の困難を越える知恵も学ばせてもらった。いわば過去の復興でなく未来を創造する意気込みである。今の私の役割は、写真という手段で世の在りよう、事実を確かに写し撮り、そしてそれを他の人に着実に伝えるべきではないかと。これからは微力ながらその力を自分に蓄えることである。

多くのことを学ばせていただいた研修であった。